

# 義家に滅された一盛長者いちもり ちようじゃ

**む**かし、台渡たいわたりの長者山ちようじゃさん（現在の水戸市渡里町）というところに一盛長者を頭とするたいそう力のある一族が住んでおりました。

源義家が後三年の役（一〇八三〜八七）の時、十  
万の兵を率いて奥州へ行く途中、一盛長  
者の屋敷に立ち寄りました。

長者はすぐに十万人分の山のように  
なごちそうと、飲みきれぬほど  
の酒を用意して、義家たちを



もてなし、その酒宴は  
三日三晩も続いたそうです。その後、奥州  
で安倍氏を討った義家たちが、帰りにまた一盛長者  
のところへ立ち寄りますと、前にもましてのもてなしをうけま  
した。義家は（このような一族に、これ以上富や力をもたしてお  
いては危険だ。）と考え、夜になると屋敷に火を放ち、一族を滅  
ぼしてしまったのだそうです。

黄金の鶏を抱いて逃げた長者は、高台に追いつめられ那珂川へ  
身を投げて死んでしまったということです。  
現在、大工町交差点そばの雷神様（別雷皇大神）に伝わる籠かごは  
長者の宝の獅子頭で、この時、長者の屋敷から家来が持ちだし  
たものといわれています。

萬

